

くつろぎタイム

写真を撮ることも
ゴルフを楽しむことも、
夢中になることで
くつろぎを感じています。

仙台商工会議所 常議員・2号議員
宮城第一信用金庫
理事長

すがわら なが お
菅原 長男 氏

1952年1月24日生まれ
宮城県栗原市出身
血液型A型



1974年東北学院大学経済学部を卒業後、宮城第一信用金庫に入庫。おもに融資業務を担当した。2001年7月に保春院前支店長に就任。その後、常務理事、専務理事等を経て2018年4月より現職。入庫から45年になりました。尊敬するシャープの戴正良氏が企業再生に必要なものとして掲げた『チャレンジとスピード』に『チェンジとチャンス』をプラスして仕事にあたりています」と話す。好きな言葉は「一念通天」決意をもって一心に努力すれば、何ごとも成就するという意味ですが、実践するのは難しいですね」と笑う。

休日はゴルフの練習だ。 いそいそとゴルフをやるのが。

支店長に就任したころからゴルフをする機会が増えてきましたので、少し遅いのですが、50歳を前に本格的に始めました。現在は、弊金庫のお客さまで構成するゴルフ倶楽部に所属いただいている方々と、年間20回ほどラウンドしています。一緒にラウンドするお客さまにご迷惑をかけてはいけませんので、練習に精を出しているというわけです。恥ずかしいのであまり言いたくはないのですが、「スコア90台」を目指しています。

一つのこと集中していると、その時間は仕事のことを考える余地がありませんので、とてもよいリフレッシュになります。

「ゴルフの他にも、 ご趣味をお持ちしていましたか。」

昔は弊金庫の釣り同好会に入って、船酔いと闘いながらも海釣りを楽しみました。私は山育ちで、海釣りの経験がありませんでしたので、始めてみたらとても楽しく、おもしろかったです。当時はアイナメやカレイ、冬に近くなるとハゼなどをよく釣りました。ちなみに、20年ほど続けましたが、船酔いは克服できませんでした(笑)。

それから、栗原市の実家に母がおりますので、ひと月に2回くらいは帰るようになっています。自然の中に身をおいて、栗駒山麓の空気を吸うと、それだけでリラックスできるような気がします。

最近、必ずカメラを車に積んで、いいロケーションや名前のわからない道端に咲いているような花でも、きれいだなと思うと、そこで寄り道をしてカメラのシャッターを切るようになりました。例えば、春先に羽根が美しい雄のキジを撮ったり、「成長」をテーマに、オタマジャクシやカエルを撮るのもいいですよ。生きものにふれると、自然の中で育った子どものころに心が帰ります。そんなときは、いまの子どもたちにも、大自然とまではいなくても、「少しでも自然や生きものに触れられる遊びの場所をつくってあげられたらいいな」と、いつも思っています。

健康面で気をつけていることはありますか。

野菜中心のバランスのよい食事を取ることくらいでしょうか。でも、それは妻が気を遣ってくれるので実践できていることです。自分で気をつけていることといえば、甘いものを我慢することでしょうか。ちょっと疲れたときなど、特に甘いものが食べたくなるのですが、ぐっと我慢しています。とは言いつつも、実は今もかばんにチョコレートと忍ばせているのですが、まだ手は伸びていません(笑)。

あとは腹八分目で食事の量を抑えるとか、なるべく歩くといったことを実践しています。現職に就いてからは特に、健康に気を遣うようになりまし。また、精神面の安定を保つためにも、朝、目覚めたときに疲れが残っていると感じたときは、まずはお茶を一服、ゆつくり味わって、心を落ち着かせるようにしています。自分の精神状態に目を向けて、マイナス思考に陥りそうなどときには、これまで自分のやってきたことを思い返して、ダメだったなどと思うことは次のステップに進む踏み台にして、よかったところは「よい」と認めるようにしています。わかりやすくいえば、自分で自分をほめるわけです。そうしますと、自然と表情に生気が戻り、笑顔になることができます。元気でいれば、仕事だけでなくプラ

イベントも充実させることができます。私たち夫婦は、孫2人を含む大家族と一緒に、毎年恒例の家族行事として温泉旅行に出かけています。孫たちの顔を見ていると、とても癒やされますし、これを続けるためにも元気でいたいと思っています。

半世紀を仙台で過ごす中で、その間のまちの変化について、どのような感想をおもちですか。

大学時代、市電で通学していたことや、国道4号線が舗装されておらず、でこばこ道だったことを思い出すと、「こんなにも変わるものか」というほど発展したというのが素直な感想です。いまは、母校である東北学院大学の五橋キャンパスの竣工を楽しみにしているところ。大学時代に親の負担を少しでも軽減しようといそいそんだアルバイトや、入庫後にお客さまの対応をする際など、この大学が築き上げてきたネットワークが大きな支えにもなっていると感じています。これからは、東北の中心の大学であり続けてほしいですし、企業のトップになる人がさらに出てくればいいですね。

最後に、お仕事の近況をお聞かせください。

弊金庫は1951年7月2日の創立で、来年70周年を迎えます。現在は、



2019年10月に一緒にラウンドした方々と記念に撮影した1枚。「目の前の一打に集中しながらも、終始和やかな雰囲気の中でラウンドできたこともあり、リフレッシュにつながった」と話す。

本店が仮事務所営業しておりますが、新事務所が7月末完成を予定しており、70周年に合わせて新しい店舗で業務をスタートします。これを一つの区切りとしながら、さらに地域の皆さまの役に立ちたいという思いを新たにしております。

弊金庫には「三位一体」という経営理念があります。「会員・お客さま」「金庫」「職員」が一体となり、地域金融機関としての役割を果たし、また、弊金庫の独自性を発揮して存在感を高めながら、地域の持続的な発展に貢献することを今後も目指していきます。新しい時代には新しい課題が出てきますが、それを乗り越えながら、100周年に向けて、その基礎となるような盤石な基盤をつくっていく決意です。

より良い環境をめざす。

